

「加世田小学校の稚児踊传承活動の取組」

1 学校名

南さつま市立加世田小学校

2 学年・人数

小学生男子1年～6年（約70人）

3 日時・場所

(1) 練習の場所・日時

竹田神社・6月～7月 午後5時～午後6時（週3回）

(2) 発表の日時・場所

竹田神社夏祭り・平成29年7月23日（日）午前10時～正午【竹田神社境内，他】

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

稚児踊（ちごおどり）

(2) 由来

島津忠良（日新公）が，戦場に出向く武士を鼓舞するため部下に踊りを命じたことが始まり。その後，元亀2（1571）年に，島津15代貴久（忠良の子）が死去した際，慰霊の為に土踊をすることが定められ，現在まで400余年続いている。現在では毎年7月23日に竹田神社の夏祭りにおいて，境内で奉納されている。土踊は，青壮年で行う二才踊と，小学生の稚児踊で構成されている。

(3) 構成等

稚児踊は，先導に大人による甲冑武者，続いて白装束に陣羽織を着た小学生の踊り子隊が続く。踊り子隊は，もろや鐘や太鼓を持つ「郷土」と低学年の「歌子」で構成されている。街中を練り歩いた後，竹田神社の境内を一重の円陣で周回しながら歌い，手持ち太鼓をたたき，最後に境内上手から下手に一直線に並んで手持ち太鼓をたたき，締める。

5 保存会や地域との連携の具体

- ・ 「稚児踊保存会」の依頼を受け，加世田小学校教員により参加児童の募集が行われる。
- ・ 練習は，「稚児踊保存会」により竹田神社の境内で行っている。
- ・ 児童だけでなく，加世田小学校の教員も一緒に旗を持ったり，甲冑を着て列に参加したりしている。
- ・ 教員は，できる範囲で練習の様子や当日の様子を見て，児童への励ましや連絡等に関わっている。
- ・ 稚児踊を終えた後，参加した児童・保存会・教員で慰労の一日遠足を行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・ 稚児踊を知ってもらうために，ポスターを作成している。
- ・ 「いろはカルタ」を使った校内カルタ取り大会やその他のイベントを行っている。
- ・ 毎朝「いろは歌」を朝の会で復唱し，日新公の教えを伝承している。

7 取組の様子



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

僕は、小学校最後の夏、稚児踊に参加しました。そのため週3回程度、放課後に1時間練習をしました。小学校の先生方と地域の保存会の方々がボランティアで僕たちに踊りを指導してくれました。厳しい練習が続く「暑い。きつい。」と何度もくじけそうにもなりました。

ついに、7月23日。本番の日がやってきました。朝早くに踊りの衣しょうを着せてもらい、公民館を出発しました。約2kmの道のりを太鼓やもろや鐘に合わせ商店街を歩きました。暑いし、足が痛くてくじけそうでした。でも、沿道で応援してくれる人たちのおかげで竹田神社に着くことができました。階段を登ると神社の境内です。境内には、たくさんの人が見に来ていました。友達の方を見るとみんな真剣な顔付きで気合いが入っていました。

「ふだん通りやるだけだ。」

間違えないよう、何倍も集中しました。多分練習以上に力を出すことができましたと思います。終わった後、たくさんの人にはく手をもらいました。今日までみんなと力を合わせてやって来たことをはっきできて、感動と達成感でいっぱいでした。帰りにお母さんが、

「上手だったね。よくがんばったね。」

とほめてくれました。ものすごくうれしかったです。僕は中学生になっても郷土行事に進んで取り組みたいと思いました。

